

# 教育研修

No.152 (令和8年3月2日)

おもな内容 ページ

随想	1
研修講座寸評	2～4
出前講座寸評	5～6
令和8年度講座開設の工夫とICT実技研修講座開設	7
令和8年度開催予定講座	8
研究室だより	9
お知らせ	10

## 旭川市立近文第2小学校 紹介

近文第2小学校では、総合的な学習の時間で行う地域学習の一つに「突哨山活動」があります。児童は年間3回ほど、四季折々の突哨山に出かけ、自然の移り変わりや動植物の生態など、地域環境について体験的に学びます。そこで得た気づきや学びをまとめ、校内で発表することで表現力、主体的な学びの姿勢を育てています。自然豊かな環境と温かな地域の支えの中で、児童が主体的に学び、成長できる学校です。



随想

## 「へき地と言われる地域の教育長のひとり言」

上川教育研修センター組合教育委員会  
委員 村上雅之  
(幌加内町教育委員会教育長)



へき地と格付けされた「本町のような過疎地には高額なへき地手当を支給しなければ教員として赴任してくる先生はいませんよ」とあちこちで言われることがある。その人たちは教育の平等性確保や ICT 技術の革新的な発展による教育機会の確保をどのようにとらえているのだろうか。

これだけ車社会が発達し、1時間以内は通勤(管理職以外の教職員はほぼ全員近隣の市から通勤)が当たり前の時代にいつまでそのような対応をし続けるのかその格付けを維持し続けるのか誰も疑問に思わないのだろうか。

移住定住は居住地を各個人が選んで居住するのは当たり前の時代だと思うが転勤を伴う職業人に働く場として選んでもらえないほど魅力のない町であることに大きな失望と危機感を抱くところである。

私のところにもよく一クラス30人や35人学級の要請が繰り返されるが過疎地で元々3人か5人しかいないクラスならきつと行き届いた教育がなされていると普通は考えがちだが実際はそうでもないらしい。

では何人なら個々に行き届いた教育がなされるのだろうか。上川教育研修センターでは様々な研修を通じ教職員の資質向上や教育の在り方、方向性を学び研鑽を積む場を提供している。その意義に共感するところであるがその場がやはり中心地でセンターに近く、通える範囲の人間に偏っていることは残念なことである。

児童・生徒の少ないへき地と言われる学校の教職員の方が金銭的にも時間的にも余裕があるような気が

がするのだがそう考えるのは素人の浅はかさなのだろうか。

さて、愚痴はこれくらいにして本題に入りたい、自分のところのような過疎地の教育委員会とはこと教職員に対しては他の業種よりも一層の支援、協力を惜しまないというスタンスで予算を確保し、学校運営等の仕事をしている。

本当に近いところで各学校に寄り添って、「いかに先生たちに自分の町の子供たちに良い教育をしてもらおうか」そんなことを真剣に考えて日々対応に追われているわけである。

しかし、どこでそのような教えを受けたのかわからないがマンデラエフェクトのごとく多くの地方自治体において一様に「教育委員会は敵だ!」みたいな考えを持たれ、教育委員会とは距離を置いた態度をとられがちである。いくらこちら側から歩み寄ろうとしても頑なにその扉を開くことがないというのもよく言われることである。地域とともにある開かれた学校づくりが叫ばれている中で教育委員会と距離を置くことが地域に根差した教育につながるとは決して思えないのであるが、研修センターのカリキュラムの中に是非そういう地域とのかかわり方を学ぶ研修場面を作っていただきたいし、もっと地域の教育委員会を利用・活用してもらいたいのが本音である。

学校が勉強(授業)だけを教える場所ではなく、社会に寄与するような人間形成の重要な育成場所であるなら社会のルールや一般常識を再確認させる研修内容もぜひ取り組んでいただきたい。

## 富良野市立樹海学校 紹介

樹海学校の校区である東山地域は、人口591人の小さなコミュニティです。今年で42回目のクリーンタウンプロジェクト、7月のふるさと祭り、9月の子ども相撲、10月の東山文化祭など、地域の活性化に寄与する取組に学校をあげて協力しています。また、本校の特色ある教育活動であるかぼちゃ栽培では、PTAの協力を得ながら取り組んでいます。来春から、保育所と樹海学校の施設が接続され、2歳から15歳までのすべての子供が同じ施設で学びます。



## センター日誌

- 11/5 研修事業拡大会議
  - 12/2 センター研究発表会Ⅱ
  - 12/8 センター運営協議会
  - 1/13 冬季合同所員研
  - 1/19 センター組合教育委員会会議
  - 2/10 センター組合議会定例会
  - 3/2 センターだより第152号発行
  - 3/31 令和7年度研究紀要第51号発行  
(webサイト掲載予定)
  - 4/2 令和8年度研修講座開催要項発行  
(webサイト掲載予定)
- ※毎週火曜日:定例研究室会議  
※随時:研修講座講師打合せ会議

# 研修講座寸描1

## 2 特別支援教育 6/12(木) 9/24(水)

講師

宮越けんじ (旭川市教育委員会 特別支援教育専門員)  
 黒谷 陽子 (知新小 教諭)  
 山田 麻弥 (明星中 教諭)



「さまざまな障がいや特性がある児童生徒に対応した教育支援の提供や、それぞれの児童生徒が最大限に学び成長できるように環境整備と教育プログラムの在り方」

受講者の声

- ・子供の成長と心理的領域についての話が特に印象的で、コンフォートゾーンとストレッチゾーンを行き来させることを意識して日々の実践に取り組みたいという意欲が高まりました。
- ・生活単元学習の具体的な授業展開や指導計画について深く学ぶことができました。特に、教科や自立活動を踏まえた指導計画が非常に参考になり、早速実践したいという意欲が高まっています。

## 9 外国語(英語)指導 7/29(火) 9/29(月)

講師

柳澤 麻弥 (旭川市教育委員会 課長補佐)  
 福島 健一 (永山西小 教諭)  
 渡邊 舞子 (東陽中 教諭)



「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための効果的な指導の在り方」

受講者の声

- ・自分にはなかった指導法、工夫、考え方などを聞くことができ、日頃の悩みを解決する糸口や新たな視点を得ることができました。
- ・授業、実践を見せていただき明日からの授業作りのヒントをたくさんもらいました。
- ・小学校での学習内容を土台とした中学校での指導について、具体的な視点を得られました。
- ・小学校と中学校の授業を両方とも見られてよかったです。小中連携のポイントに気付きました。

## 11 社会科指導 7/31(木) 9/26(金)

講師

植田真夕子 (北海道教育大学旭川校 准教授)  
 寺嶋 健人 (高台小 教諭)  
 田中 志保 (東陽中 教諭)



「社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を多面的、多角的に考察し、課題解決に向けて選択・判断・議論する力を育てる社会科指導と評価の在り方」

受講者の声

- ・普段子供に何を思考させるか、どのように思考させているのかを知る機会になりました。授業の中で二つの思考の仕方を効果的に組み合わせたいと思いました。
- ・内容知から方法知へ。中核的な概念の獲得など今後の授業づくりで意識したいことがたくさん学べました。
- ・実践授業を見させていただき、子供がどんな学びをしていくのかを捉える導入に感銘を受けました。今後の授業の参考にさせていただきたいと思えます。

## 12 算数・数学科指導 8/1(金) 9/26(金)

講師

谷地元直樹 (北海道教育大学旭川校 教授)  
 三村 仁 (神楽小 教諭)  
 今崎 彰彦 (緑が丘中 教諭)



「数学的な見方・考え方を働かせ、課題解決を行うための思考力・判断力・表現力を育てる算数・数学科指導と評価の在り方」

受講者の声

- ・子供たちが見方、考え方を働かせるような働きかけを意図的に組むことの大切さを改めて考えさせられました。日々の指導に特効薬はなく、漢方薬のようにじっくり効いていくという話にとっても共感しました。これからも日々の積み重ねを大切にして指導していきたいと思えます。
- ・小中の接続を話す上で、改めて自分の学年だけを見て授業をするのではなく、その前後の繋がりを意識して子供たちも自分の中で知識、考え方を繋げて行けるようにするべきだと強く感じさせられました。

14 理科指導 8/5(火) 10/6(月)

講師

林 貴史 (上川教育局 指導主事)  
北島あゆみ (神居小 教諭)  
加納 宏康 (永山南中 教諭)



「理科の見方・考え方を働かせ、科学的現象を多面的・多角的に捉え、考察する力を育てる、理科指導と評価の在り方」

受講者の声

- 単元の導入について、深く考えることができました。また、他の先生方の実践やアイデアもたくさん聞きましたので、非常に参考になりました。早速、実践したいと思います。
- 探求的な学びをさせるには、単元の計画をするときから、仕組みを作っていく必要があることに、改めて気づきました。授業者の先生が言うように、それぞれがどのようなところで、どのような探求学習をしているかという情報を交流しておくことよかったです。

19 学校経営Ⅱ 9/22(月)

講師

木野下尚大 (上川教育局 教育支援課長)  
佐藤 忍 (大有小学校 校長)  
加藤 広章 (東光小学校 校長)  
岩瀬 一弘 (旭川中学校 校長)  
越野 崇 (中富良野中学校 校長)



「スクールのリーダーとしての教頭の在り方」

受講者の声

- 「教頭の小さな工夫が学校を大きく変える」という言葉に象徴されるように、日常業務の中での創意工夫の大切さを感じた。
- 講話では、教頭の業務や進め方を改めて確認したとともに、自分自身を振り返ることができました。教職員の人生を預かっている自覚と責任、教頭の役割を自己発見するということが、特に印象に残りました。交流で、他校の取組を聞くことができ参考になりました。

20 書写指導 (実技) 10/3(金)

講師

西川 竜矢 (北海道教育大学旭川校 准教授)  
西森 心哉 (北門中 教諭)



「書写指導における基礎的な実技指導と評価の在り方」

受講者の声

- 他の先生の実践を見る機会がほとんどなかったため、ICTの活用の仕方やポイントの説明、時間配分など参考にさせていただきます。生徒は終始集中して取り組んでいましたし、教科担任の先生の机間巡視での声かけも生徒一人一人の作品のよいところを認め、向上させるものであると感じました。書写の実践講義では基礎基本から一つ一つお手本をもとに練習することができ、コツもご説明いただき生徒に向けたよい参考となりました。

21 音楽科指導 (実技) 10/16(木)

講師

佐藤 正友 (共栄小学校 校長)  
熊谷奈緒美 (神居中学校 教諭)



「音楽を知覚・感受する力を伸ばし、他者と協働しながら、表現の音楽表現を生み出したり、楽しむ音楽表現を見いだしたりする音楽科指導の在り方」

受講者の声

- 午前中の授業公開では、思いや意図をもちながら、生き生きと工夫する生徒の姿を見せていただき、大変勉強になりました。
- デジタル教材で創作したものを実際に箏で弾くことによって、新しい発見や、新しいアイデアが広がるなと思いました。
- 「箏の調子を生かした創作の授業実践」や佐藤校長先生の多岐にわたる授業のヒントが、大変参考になりました。実技を交えて、参加者が楽しく学ぶことができました。

研修講座寸描 3

23 書に親しもう 1/9(金)

講師

蛭名 伸也 (永山南中学校 教頭)



「豊かな表現で書に親しむ」



受講者の声

- ・書写と書道の違いについて確認させていただきました。書道は自由度が高いように感じましたが、それが逆に難しさとして感じました。面白さも感じましたので試行錯誤をしてみたいと思います。
- ・2回目の参加をさせていただきました。書を通じて自分の思いを表現したり、他の参加者のみなさんの思いを感じ取ったりするこの空間がとても素敵だと感じています。
- ・講師の先生が、実際に書いているのを見ることができるという点が、とても勉強になります。

24 絵に親しもう 1/9(金)

講師

藤山 春乃 (北星中学校 教諭)



「豊かな表現で絵に親しむ」



受講者の声

- ・基礎的なことをさらっと学んでから実践にうつったのがありがたかったです。交流の時間もあり、参考になりました。
- ・三原色で全ての色が作れる…という知識はあるものの、実際に体験すると「本当に赤色になった!」というような驚きがありました。面白かったです。
- ・色作りの基礎に立ち返らせて頂き、色を作っていくことの楽しさを感じました。作品を作り、相互評価することのありがたさを感じました。授業にも還元していきます。

一般講座へのお申込みについて

本年度より、研修センターの講座受講申込み方法を、従来のFAXからGoogleフォームによる申込みに変更いたしました。新しい運営方法で1年間事業を進める中で、いくつか課題や不具合が見受けられました。つきましては、以下の点についてお知らせするとともに、今後のより円滑な運営のために御確認・御協力をお願いいたします。

1. お申込みについて

受講申込み完了の確認メールが受講者へ届かない事例が報告されています。確認メールは、所属校(園)の代表メール宛にお届けしておりますので、お申込みの際は、所属校(園)の代表メールアドレスを御使用ください。また、送信前にメールアドレスの入力間違いがないかを必ず御確認くださいようお願いいたします。

2. 講座当日の欠席等について

講座を欠席・遅刻・早退される場合は、必ず管理職を通じて御連絡をお願いいたします。

3. 学校代表メールについて

学校の代表メールアドレスに変更があった場合は、お手数ですが研修センターまで御連絡ください。スムーズな運営のため、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

# COURSE DETAILS



出前講座（8月25日～9月8日）



講師：因幡 明浩  
(当麻小学校 教諭)

上富良野小学校「今日的な教育課題」  
8月25日（月）

AIを活用した授業の実例を通して、学習の魅力を高める方法を学びました。また、探究型の授業の工夫や展開の仕方についても多くの示唆を得ました。さらに、対話を意図的に仕込む授業設計の演習では、児童の主體的な学びを促すための具体的な方法を体験的に理解することができました。



講師：岡野佳奈美  
(共栄小学校 教諭)

鳥沼小学校「特別支援教育」  
8月26日（火）

同じ立場で実際に指導している講師の方の話を聞くことができ、大変参考になりました。質問にも、経験を交えながら丁寧に対応していただき、とても分かりやすかったです。ご指導ありがとうございました。



講師：水牧 幸夫  
(神楽中学校 教諭)

忠和中学校「特別支援教育」  
8月27日（水）

講義の中で、合理的な配慮について実践例を紹介していただき、誰もが過ごしやすい環境となるように配慮することが大切であると学ぶことができました。講義の内容を今後に生かし、生徒の特性の発見や理解に努めていきたいです。



講師：山本 浩貴  
(陵雲小学校 教頭)

士別市立朝日中学校「教科等指導」  
8月29日（金）

対話で進めることの大切さを、改めて理解することができました。多面的とは別の立場を知ること、多角的とは交流を通して考えを相対化することだと整理することができました。ねらいと目標の違いや、評価の在り方は、今後授業をする上で、綿密に考えていきたいです。



講師：加藤 久貴  
(朝日小学校 主幹教諭)

江丹別小中学校「ICTの活用」  
9月3日（水）

講義では、教育版 canva を使って、チラシを作成しました。テンプレートやフォントの種類も豊富で、簡単に本格的なチラシを作成することができました。日常の業務の中でも、お知らせしたり案内したりする文書の作成の際に活用できると感じました。

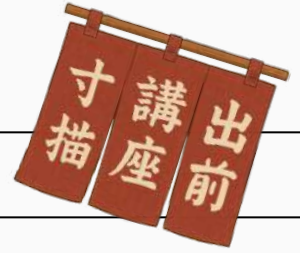


講師：北村 裕美  
(緑が丘中学校 主幹教諭)

愛宕中学校「ICTの活用」  
9月8日（月）

講義の中で、「深い学び」を実現するためのICTを活用に向けて意識するポイントを示していただき、日常の授業や校務で感じていた困り感が和らぎました。また、実践例を通して紹介いただいた多様な指導法は今後の授業改善に生かしたいと思います。

# COURSE DETAILS



出前講座（9月11日～10月28日）



講師：大道 東太  
(旭川中学校 教諭)

智恵文小中学校「生徒指導」  
9月11日（木）

講義の中で、小中連携にもふれていただきながら、自己有用感や愛着形成についてのポイントを示していただき、多くの学びを得ました。特に、愛着形成についてより深く知りたいと感じたため、児童生徒の成長のために、さらに学んでいきたいと思えます。



講師：片山 泉  
(愛宕中学校 教諭)

西神楽中学校「教科等指導」  
9月30日（火）

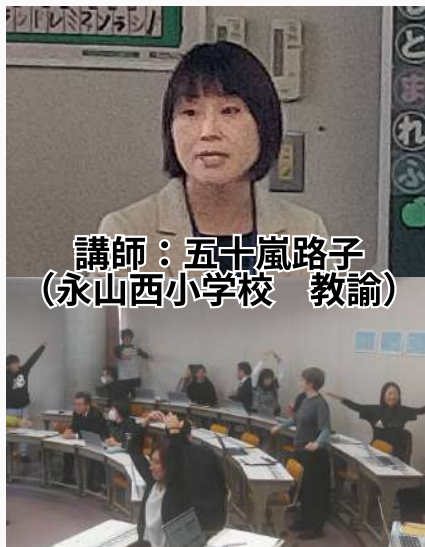
「個別最適・協動的な学び、主体的な学びについて」の講座をしていただきました。理論から復習することで、自分の実践を見直す事ができました。学びにおいて、ゴールを生徒と共有しながら、互いに調整していくために必要な事を改めて考える事ができました。教員同士で実践を交流する事もできました。



講師：近田 泰斗  
(高台小学校 教諭)

近文第1小学校「教科等指導」  
10月1日（水）

授業によって子どもたちのどのような学びを深めるのかを教えてくださいました。楽しみながら学びを深めるヒントをもらえた気がします。自分の考えを表にして考えることで、授業の中でどのようなことを目指すのかを少し整理することができました。これからの授業作りの中で生かしていきたいです。



講師：五十嵐 路子  
(永山西小学校 教諭)

当麻小学校「特別支援教育」  
10月23日（木）

講座を通して、発達障害のタイプごとの特性や支援のあり方などについて、とても分かりやすく教えていただきました。ポジティブ行動支援の大切さ、一人で抱え込まずチームで支援体制を組むこと等の重要性が分かりました。



講師：迷野 尚広  
(神楽小学校 教諭)

台場小学校「生徒指導」  
10月28日（水）

すぐに学級で使えるようなグループエンカウンターについて教えていただき、早速やってみようと思います。相手のことを考えたり、よく見たりしてコミュニケーションを取ることは良い学級づくりにつながるとあらためて感じました。

## 本年度の実績

<全23講座>

特別支援教育	・・・	5
教科等指導	・・・	7
ICTの活用	・・・	6
各種実技指導	・・・	1
生徒指導	・・・	3
今日的な教育課題	・・・	1

計457名の方に受講していただきました。来年度もお申込みをお待ちしております。

## 令和8年度 講座設定の工夫

- (1) 教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「学級経営と児童生徒理解」講座では、生徒指導提要やいじめ・不登校への理解を深めることを重視する。
- (4) 教育課題研修では、『学習指導要領改訂の方向性』をテーマにした「教育講演会」を開催するとともに、「学校と地域の連携・協働」「校務処理のデジタル化」「研修センター公開授業Ⅰ・Ⅱ」の講座で今日的教育課題に対応する。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに、それぞれの授業研究を行う。
- (6) 教科実技研修では、免許外教科担任のニーズに応えるため、管内研究団体と連携した講座を開設し、受講者の指導実技向上を重視する。
- (7) ICT実技研修では、教職員のニーズに応えるため、生成AIやデジタルツールの体験を通して、校務効率化や授業改善に資する実践的な講座を開設する。また、定年延長に伴いベテラン層のニーズの高まりを踏まえた講座内容を工夫し、全講座で複数講師による少人数指導で対応するとともに、受講しやすくなるように講座を長期休業中に集中し、半日日程で開設する。
- (8) 北海道立教育研究所と連携した講座を開設する。
- (9) 期限付教員の指導力向上はもとより、教育活動に関わる多様な職種の方々の職能向上及び連携強化のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項・センターだよりのWebサイト上への掲載、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利便性を図れる資料室の充実に努める。
- (12) 上川管内で開催予定の各教科等の全道・全国規模の研究大会との連携に努める。

## 令和8年度 ICT 実技研修講座の開設について

令和7年度までの研修は、表計算やタブレット操作などの基礎習得が中心でしたが、GIGA スクール構想の定着や生成AIの登場に伴い、学校現場のニーズは単なる「操作」から、より具体的な「活用」へと大きく変化しています。この現状を踏まえ、令和8年度からは目的を「ICTを使う」ことから、校務効率化や授業の質向上において「ICTを生かす」ことへと明確に転換します。具体的には、ChatGPTやGoogle Workspaceなどの最新ツールを活用した課題解決型の講座を新設し、初心者にも分かりやすく、かつ学んだその日から現場で役立つ実践的な内容に刷新します。先生方が「難しそう」という不安を超えて「やってみよう」と思える、未来志向で実用性の高い研修を目指します。

授業・校務に生かせる 生成AI活用術	生成AI（ChatGPT、Geminiなど）を活用し、教材や文書を効率的に作成する方法を学び、校務に生かす。授業や校務で情報を安全に扱うポイントや、最新のAIツールも紹介する。
やさしく学べる Google活用術	Googleのサービスを使って、データの作成から共有までを体験的に学ぶ。日常業務に役立つ実践的な内容や最新の情報共有アプリの紹介、業務の効率化を支援する。
今日からできる！ データ活用術	Googleフォームやスプレッドシート、Excelを使ってアンケート集計などのデータ活用を基礎から学び、実践のきっかけづくりを目指す。
授業をもっと楽しく！ デジタルツール活用術	Canva・Kahoot!・Padletなどを使い、児童生徒が主体的に学べる授業づくりを体験的に学ぶ。最新のデジタルツールも紹介し、授業の多様化に対応できるよう支援する。

## 令和8年度 上川教育研修センター 開催予定講座

番号	講座名	開催日	研修のテーマ	授業	
1	学校経営Ⅰ	6/3	令和の日本型学校教育の実現に向けた学校経営の在り方	/	
2	研修センター公開授業Ⅰ	6/16	第21次研究2か年計画（1年次）の研究発表	小	
3	特別支援教育	① 6/24 ② 9/2	インクルーシブ教育システムの構築と多様なニーズに対応した教育環境の持続的な改善	小中	
4	学級経営と児童生徒理解	6/25 予定	生徒指導提要の改訂をふまえた、これからの生徒指導の方向性～いじめ・不登校への理解～	/	
5	読書活動	6/26	児童生徒に本を読む楽しさを実感させる指導の在り方	小	
6	校務処理のデジタル化 ～各校の課題&実践交流会	① 6/30 ② 9/8	実践交流を通じた、各校の課題を解決するICTの効果的な活用	/	
7	道徳科指導	① 7/15 ② 9/3	児童生徒が主体的に考え、議論する道徳科指導の在り方	小中	
8	算数・数学科指導	① 7/16 ② 9/25	数学的な見方・考え方を働かせ、課題解決を行うための思考力・判断力・表現力を育てる算数・数学科指導と評価の在り方	小中	
9	教育講演会	7/27	学習指導要領改訂の方向性	/	
10	幼保小連携教育	7/28	幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指す幼保小連携教育の在り方	/	
11	外国語（英語）指導	① 7/29 ② 9/29	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための効果的な指導の在り方	小中	
12	社会科指導	① 7/30 ② 9/30	社会的な見方・考え方を働かせ、社会的な事象を多面的、多角的に考察し、課題解決に向けて選択・判断・議論する力を育てる社会科指導と評価の在り方	小中	
13	国語科指導	① 7/31 ② 9/9	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てる授業の在り方	小中	
14	理科指導	① 7/31 ② 10/7	理科の見方・考え方を働かせ、科学的事象を多面的・多角的に捉え、考察する力を育てる理科指導と評価の在り方	小中	
15	学校事務実務	8/4	学校事務における今日的課題	/	
16	学校と地域の連携・協働	8/28	地域の力を生かした学校教育の充実と熟議・協働の在り方	/	
17	学校保健	9/4	児童生徒の心身の健康を育む学校保健の充実	/	
18	学校経営Ⅱ	9/18	スクールリーダーとしての教頭の在り方	/	
19	図工・美術科指導（実技）	10/8	基礎的な能力を伸ばし、感性を働かせながら、作り出す喜びを味わい、豊かな情操を養う図工・美術科指導の在り方	/	
20	体育科指導（実技）	10/9	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むための、協働的な学びを生かした体育科指導と評価の在り方	/	
21	研修センター公開授業Ⅱ	12/1	第21次研究2か年計画（1年次）の研究発表	中	
22	技術・家庭科指導（実技）	1/7	生活や社会の問題から設定した課題を解決する力を育む技術科指導と評価の在り方	/	
ICT実技研修	A	授業・校務に生かせる 生成AI活用術	① 7/8 ② 7/24 ③ 7/31 ④ 1/6	生成AI（ChatGPT、Geminiなど）を活用し、教材や文書を効率的に作成する方法を学び、校務に生かす。授業や校務で情報を安全に扱うポイントや、最新のAIツールも紹介する。	/
	B	やさしく学べる Google活用術	① 7/29 ② 8/3 ③ 1/6	Googleのサービスを使って、データの作成から共有までを体験的に学ぶ。日常業務に役立つ実践的な内容や最新の情報共有アプリの紹介、業務の効率化を支援する。	/
	C	今日からできる！ データ活用術	① 7/30 ② 8/4 ③ 1/7	Googleフォームやスプレッドシート、Excelを使ってアンケート集計などのデータ活用を基礎から学び、実践のきっかけづくりを目指す。	/
	D	授業をもっと楽しく！ デジタルツール活用術	① 7/15 ② 7/24 ③ 7/31 ④ 1/7	Canva・Kahoot!・Padletなどを使い、児童生徒が主体的に学べる授業づくりを体験的に学ぶ。最新のデジタルツールも紹介し、授業の多様化に対応できるよう支援する。	/
出前講座		随時	管内各校（教育機関）からの要請に応じ実施する	/	

第20次研究 2年次

研究主題「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」

～子どもを主語にした主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、2年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができました。

## 成果

- ① 児童生徒の興味を引く題材やこれまでに学んだこと・経験から、課題設定へ繋げることができた。授業者が児童生徒に問いかけたり、予想させたり、対話したりすることで、一方的な課題提示とならないようにした。
- ② 学習内容や学習方法を選択する機会を単元や各時間に位置付けることにより、児童生徒の学習意欲を高め、学びの当事者とすることができた。
- ③ 「子どもを主語にした主体的・対話的で深い学び」を日々実現していくための簡易指導案として「単元デザインシート」を提案・発信することができた。

## 課題

- ① 児童生徒が資質・能力を身に付けた姿を、授業者は具体的に想定しておく必要がある。単元や各時間において、どのような発言や記述等の表現が見られれば、おおむね満足できる状態であるのか、あらかじめ想定しておく必要がある。
- ② 児童生徒が書いた振り返りから、どのような思考の変容が見られたかの検証が不十分であった。振り返りの内容に目を通し、分析を行うことが必要である。
- ③ 課題やまとめ、児童生徒の課題解決に向けた学習活動等が、単元や1単位時間を通じて、整合性や意味の繋がりのあるものだったか、事前の検討が不十分であった。

詳細は、3月発刊の研究紀要第51号を御覧ください。

協力校  
の実践

～求められる資質・能力を育むために、必要感をもって文法表現を身に付け、表現力を高めることを目指した授業～

旭川市立神居東中学校

第2学年  
授業者

英語科  
白井 千貴

### 1 児童生徒の思考に沿った単元デザインの工夫

単元の課題設定のプロセスにおいて、生徒が宿泊研修で実際に調べた内容を取り上げ、バリアフリーに目を向けられるようにした。身近な題材を用いた単元の導入により、生徒の興味・関心を高められると考えた。また、知識・技能を身に付ける段階においては、通年で行っている「ミッションシート」を活用しながら、何を学ぶべきか、どのような技能を身に付けるべきか、どう学ぶかを選択させるとともに、学習の到達度を振り返りながら学習を進め、自らの学びを調整できるようにした。

### 2 児童生徒の深い学びを促す教師の働きかけ

習熟度に差がある生徒の実態を踏まえて、全員が本時の課題を確実に確認できるような丁寧な発問をすることで、適切な表現方法に焦点化させることを目指した。また、パドレットを活用して、多様な表現について他者参照させることで、「良い表現」の共通理解を図り、新たな学びや気づきを促すようにした。

### 3 本実践の成果と課題

ミッションシートにより、生徒が見通しをもち、自立的に学びを進めることができた。また、パドレットを活用した他者参照により、多様な考えに触れながら、全員が自分の考えを書くことができていた。

単元で設定した課題と本時の課題のつながりをより明確にすることが必要である。また、前時とのつながりを意識した上で、生徒の考えがより深まるような発問についてさらなる吟味が必要である。

協力校  
の実践

～求められる資質・能力を育むために、児童が目的をもって交流し、協働的な課題解決を目指した授業～

旭川市立東栄小学校 第6学年 算数科  
授業者 前川 裕太郎

- 1 児童生徒の思考に沿った単元デザイン**

単元の導入では、形が異なる三つの図形を提示し、「どの図形の面積が一番大きいのか」という問題を提示した。児童は、問題について予想することを通して、「円や図形が組み合わさった形の面積はどのように求めたらよいか」という単元の課題を導き出すことができた。また、どのように学習を進めるかについても、児童の意見をもとに学習計画を立てることで、各時間の学ぶ意味を見出せるようにした。展開では、児童が、学習に対する自分の理解度を「理解度メーター」で表し、目的をもって交流できるようにすることで、学習内容の定着を図ることができた。また、振り返りの時間を意図的に設けたり、一単位時間の振り返りと単元の振り返りを分けて設定したりすることで、児童が自己の変容を捉えやすくなるようにした。
- 2 児童生徒の深い学びを促す教師の働きかけ**

本時は、全十一時間の九時間目にあたり、「半円と他の図形が組み合わさった形の面積の求め方を説明することができる」を目標とした。児童は、求め方を予想し、ノートやタブレットを用いて図形を操作しながら説明を考えた。交流の機会を二度設けることで、より多くの児童が正しく説明できるようにした。振り返りでは、学ぶ内容と学び方について振り返ることで、自分の学びを自覚する機会とすることができた。
- 3 本実践の成果と課題**

単元の導入で問題を提示し、各時間の学びを活用して答え合わせをしていくことで、児童は単元を通して学ぶ意欲を持ち続けることができた。また、「理解度メーター」を用いて交流に目的意識をもたせたことは、児童の活発な交流や協働的な姿勢につながっていた。一方で、本時においては、多様な考え方が生まれる中で、友達との考えの違いに戸惑う児童も見られたことから、個人の考えをまとめる時間を十分にとってから交流するなどの手立てが必要だったと考えられる。

上川教育研修センター料金表

R6. 4. 1 改訂・単位:円  
(冷房は講堂と第1研修室のみ、暖房料金と同額)

使用区分	使用者区分	午前(9時~12時)			午後(13時~17時)		
		使用料	暖房料	合計	使用料	暖房料	合計
講 堂	一 般	2,750	1,100	3,850	3,080	1,320	4,400
	承認団体	1,380	1,100	2,480	1,540	1,320	2,860
講 堂 A・B	一 般	1,380	550	1,930	1,540	660	2,200
	承認団体	690	550	1,240	770	660	1,430
研修室 会議室	一 般	1,100	550	1,650	1,320	660	1,980
	承認団体	550	550	1,100	660	660	1,320
和 室	一 般	550	330	880	660	330	990
	承認団体	280	330	610	330	330	660
研究室	一 般	1か月 45,980		*1か月未満も一月として計算			
	承認団体	1か月 22,990					
	(暖房料)	1日	990(×日数)				
物 品 1区分あたり	マイクロホン			1本	330		
	ハイパワーアンプ(マイクロホン1本を含む)			1台	440		
	オーバーヘッドプロジェクター			1台	440		
	ビデオレコーダー			1台	440		
	デジタルレコーダー			1台	440		
	スライドプロジェクター			1台	440		
	液晶プロジェクター			1台	440		
	パーソナルコンピュータ			1台	440		
	DVD/CDプレーヤー			1台	440		
液晶テレビ			1台	440			

\* 研究室は、1か月単位(1か月未満でも一月として計算)  
\* 冷房料金は7月1日から8月31日、暖房料金は10月1日から5月31日までを基本として、使用した場合に徴収し、使用しなかった場合は徴収しない。(基本の時間外も同じ取扱いとする。)  
\* 1区分とは、午前・午後の区分をいう。

【利用上のお願い】

会場利用にあたっては、左記の表の時間区分内での使用を守っていただくようお願いいたします。また、ごみの持ち帰りへの御協力もよろしくお願いいたします。なお、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

発行日 令和8年3月2日  
発行 ☎070-0036  
旭川市6条通4丁目  
上川教育研修センター  
責任者 石前 聖香

☎0166-24-2501

☎0166-24-2512

🌐 <http://kami-cen.hs.plala.or.jp>